

「うっ……ぐっ……ひゅっ……
か……からだ……がっ……
いっ……とを……うっ……」

「こんな極上のキツマンを
好き放題出来るなんて最高や……
ふんっ……ふんっ……ふんっ……」

「令呪に抗おうなんて無駄な事だ
この俺に偉そうな態度をとった罰として
そのオツサンの慰みモノになるんだなw」

「キョ……さ……ま……わ……妾を
誰だ……ぐっ……うっ……」



「うっ、うっ、くっ、くっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、
ゆっ、ゆるちぬっ、ゆるちぬっ、ゆるちぬっ、ゆるちぬっ、」

「はあ、あ、えがった」

「くっくっくっくっ」

「いや、いい種付けショーだったぞ」

「これに懲りたら今後の身の振り方に
気をつけるんだな」

「ふっ、ちけるっ、なっ、わっ、妻が
この程度でっ、」

「おっ、おっ、」なくちや」

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は



「あつ！はつ！うああつ！
きつ、貴様…っ、妾に…っ
なつ、何をした…っ！」

「なに、只お前の感度を
数百倍に増幅させただけだよw」

「そつ、そんな事のためにつ、
れ、令呪を…っ、なんと…愚かな…っ！」

「ふん、まあ精々俺を愉しませてくれ
オッサン頼んだぞ」

「よ、よくわからんがこんな上玉
何回でもイケるわつ、ふんっ、ふんっー」

「あああああああつー！」

ほっ

おん

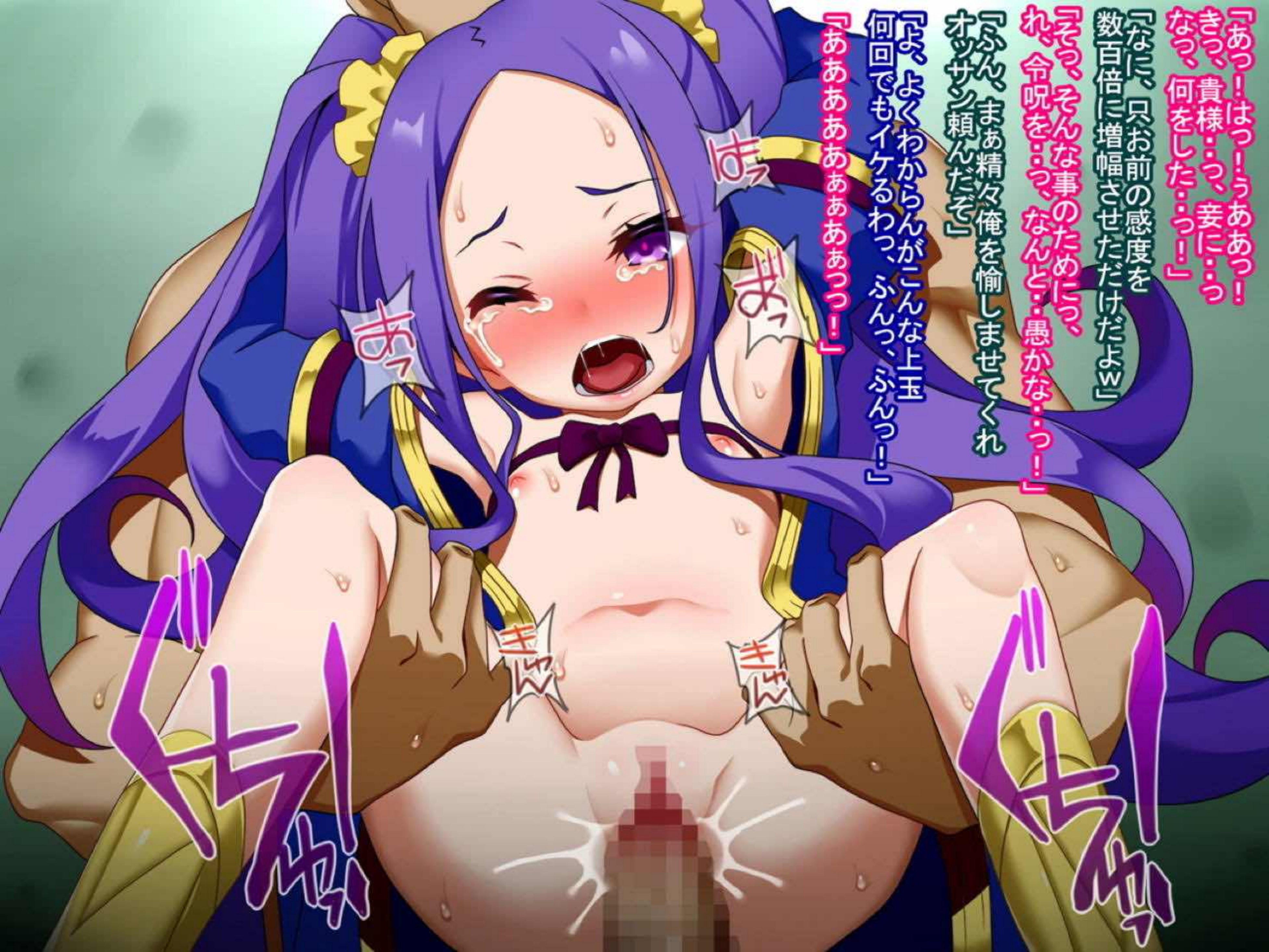
あつ

おん

おん

おん

おん





「うっ、まっ、また射精る…」

「おっ…ろか…もの…っ…
 「これ…以上は…っ…ゆ…ゆるん…」
 あああああああっっっっ」

「ま、まだまだだ…っ…ぐ…ん…」

「ま…た…っ…「ん…な…っ…
 あ…熱…っ…あ…っ…が…っ…ら…っ…
 んあああっっっっ」

「…っ…随分とまあ雌の声で
 鳴くようになったな
 これなら暫く楽しめそうだ」

ONNI

ONNI

ONNI

ONNI

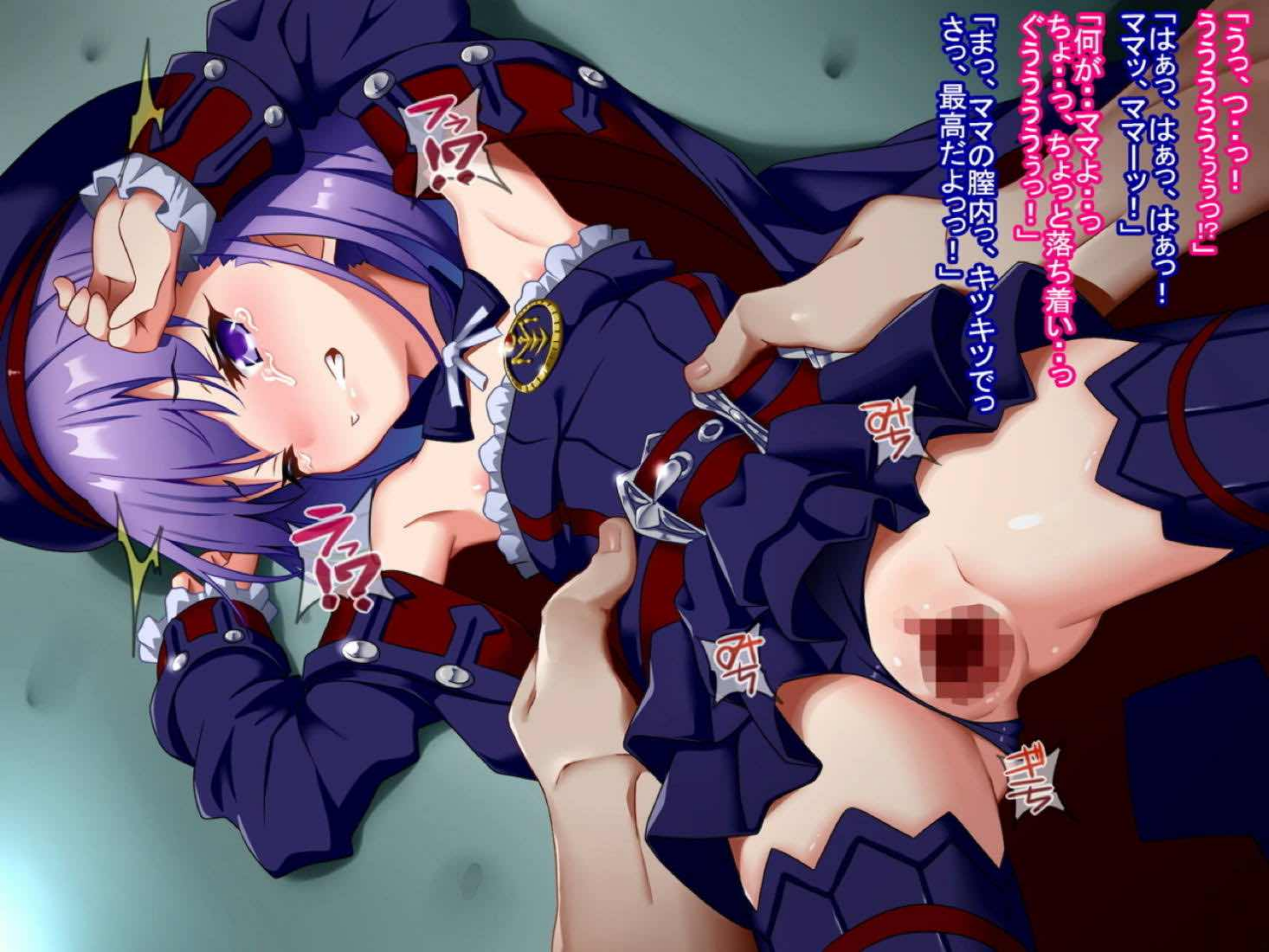
ONNI

ONNI

ONNI

W

W



「……ん、ん……」

「はあ、はあ、はあ、はあ……」

「何が……ママよ……ちよ……ちよ……と落ち着い……ぐ……」

「ま、ママの膣内っ、キキキ……最高だよ……」

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

「うっ、ぐっ、ううっ！
ぜ：全然抵抗出来ないっ
あ：あなたっ、こんな1どの為に
令呪を：っ！」

「ママが抵抗するからっ…っ」
僕は「こんなママが好きなの」っ

「んっ、くっ、んっ…
も、もう好きに…すれば…っ
いいじゃない…っ、あれぐっ…
あ…っ、あたしは…っ！」

「はあっ、はあっ、やれママ
っゆきっ…っ…っ…っ…」

「……………」

「あッ！」



「はあっはあっ、で、射精るっ！
ママのオマニ」にザーメン射精るっ！」

「なっ？！だっ、だめよっ！
そっ、外にっ！っ、外に
出さないっ！」

「はあっはあっっっっいっっイグっっ
イグっっっっっ」

「うっ！
うっ…そっ、ほ…ほんとに入っっ…
あ…っ…あ…あああ…っ」

ウウウウ

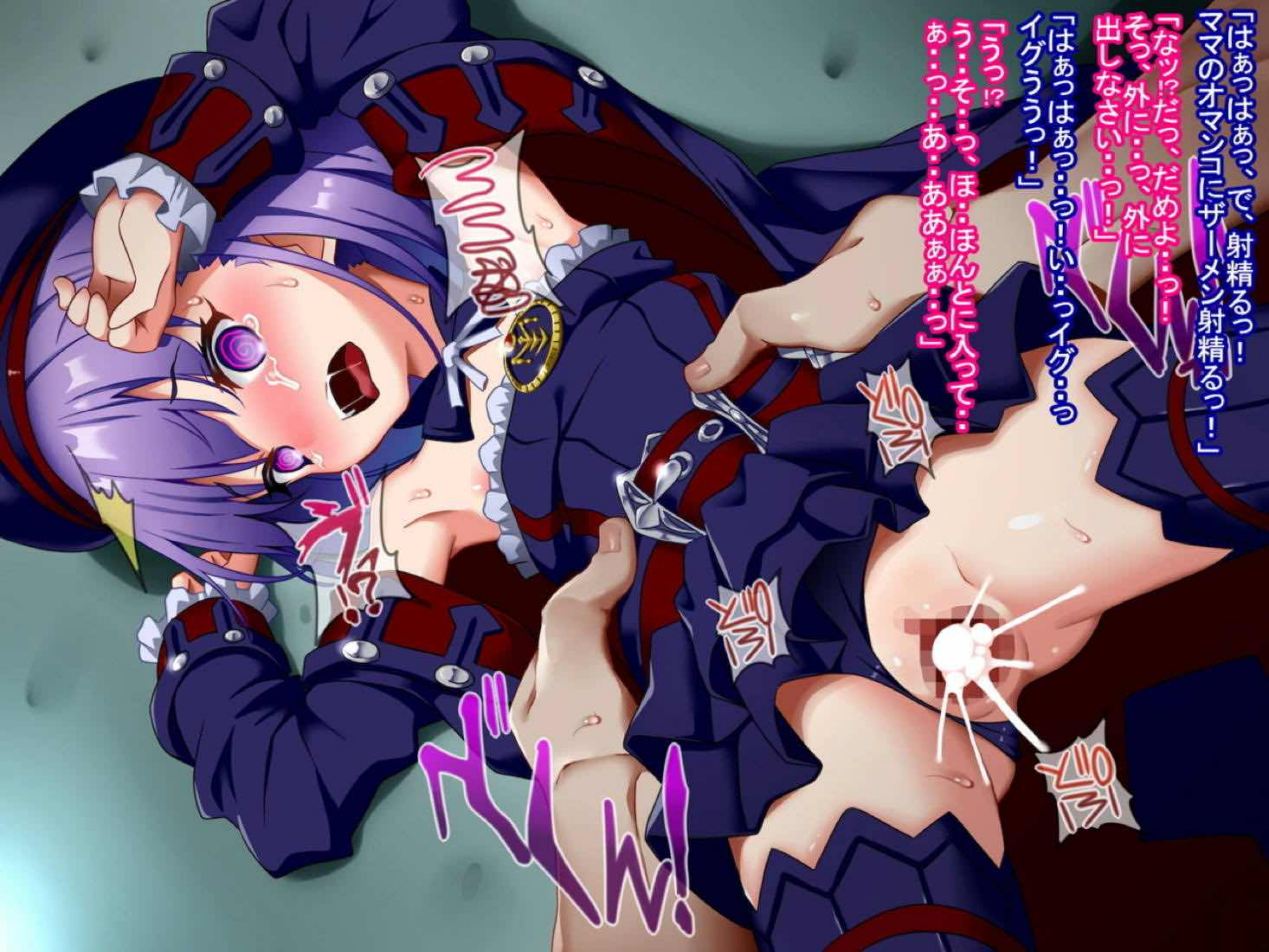
ケッ!

ズン!

OK

OK

OK



「……あ……は……あ……
はあっ……はあっ……」

「はあっはあっ……ママの
腔内最高だったよ……」

「……それはよかったわね……
そろそろ……離してくれど……
……ありがたいのだけれど……」

「駄目だよ……っ
僕はママにも気持ちよく
なってほしいんだ……っ」

「……あなた……何を……」





「あーっ…はっ…あーっ…
や…っ、やめ…っ…あ…あ…っ」

「ママ、ママ、ママ、ママ」
気持ちいい？僕のチンポ
気持ちいい？」

「あっ、なた…っ、こんな事の
ために…っ、令呪を…っ
くっくっくっ」

「ママのためなら令呪くらっ…っ
ほらっ、奥を「ジッ」するの
「あ…あ…あ…あ…っ」

あーっ

ほーっ

ほーっ

ほーっ

あーっ

「うっ、ぶっ、で、射精るっ！
ま、またママの膣内に…っ！」

「やっ、あっ、だ、ためえっ！
いっ、今射精されたらっ！」

「はあっはあっ…うっ、ぐっ…
んんんんっ！」

「ああああああああっっ
だ…めえ…っ…これ…っ
頭…おかしく…なるう…っ！」



Shirley

はっ

ON!

MM!

ON!

ON!

ON!

ON!

ON!

「んー…Cute!?!
お…か…さん…?」

「ぐ…ふ…w大丈夫大丈夫っ
お…か…さん…が…気…持…ち…良…く…し…て
あ…げ…る…か…ら…も…う…ち…よ…つ…と…
我…慢…し…よ…う…ね…っ」

「ん…っ、わ…か…っ…た…よ…っ
我…慢…っ、す…る…ね…っ」

オッ

キ

キ

キ

キ

キ

キ

キ



「あ…っ、は…あ…っ…
お…か…さん…ん…っ…
いの白いの…なあ…っ…」

「ん…ん…ん…っ…
これはジヤクちゃんがおか…さんになるために必要なもの…かな？」

「おか…さん…っ…
私達が…おか…さんになる…の？」

「そ…っ、嬉…っ…」

「わかんない…けど…
いの白いの…きらいじゃない…かも…っ…」

あ

ほ

あ

ん

ん

ん

ん

ん

「あーっ……うっ……ああっ……
お……か……ち……ん……う……っ……」

「ぐっぐっWジャンクちゃんの
気持ちいい声が溢れちゃってるよ……?
おかーさんのチンポそんな」
気持ちいいのかな?」

「う……ん……っ……おかーさんの……っ……
ちんぽ……っ……気持ちいいよお……っ……」

「素直な女の子はもっごと
気持ち良くしてあげるね……っ
ぬっ……ふんっ……っ……」

「……………」

あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

「うっ、くっ、射精る……」
射精るよジャックちゃん……」

「う……ん……、ちよーだい……♡
おかーさんの……熱いの……、うっ……」

「……ん……め……」

「ん……あ……あ……♡
き……た……う……ど……く……く……♡……
「これ……すき……、あ……は……あ……♡……」

あ……あ……♡

あ……あ……♡

あ……あ……♡



「あっ、はっ、ああ…っ…
とっ、トナカイさんは…っ
わるい…ひと…です…っ…！」

おどろ

「ごめんね…っ、お詫びに
頑張って気持ち良くするから…っ
ふんっ、ふんっ、ふんっっ…！」

「ふんっっ…っ、…んなの…っ
気持ち良くなんて…っ
なるわけ…あうっっっ…！」

「う…っめん…っ、う…っかな…っ」

「…っ、あめめあめ…っ…！」





「うっ、も、もう射精そうっ！」

「…え…」

「だ、だめですよトナカイさん!?
それだけは絶対駄目ですっ!」

「うっ、ごめんっ!」

もう間に合わっ!」

「うっ! あっ、あっ!」

出されちゃってますっ!
わたし…今っ…トナカイさんに…!」

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

「あ……あ……は……あ……っ
あ……おなか……あ……熱……っ……」

「はあっはあっはあっ……
ふうっ……っ、良かったよジャンヌ……」

「よ……よかったのは……」

トナカイさんだけです……っ

私はとってもつらかったですよ……っ」

んん

「じ……めん……っ
そんなにつらかったなんて……っ
ど……どうしたら……
そ……そうだ……っ……」

「……っ……」

んん

んん

は

は

は

んん





「あつーはつーあ…あつーー」

「ば…ばかです…つーー」

「トナカイさんはつ、おばかさんです…つーー」

「「めんつーー」うすればジャンヌも」
気持ち良くなれると思つて…つーー」

「「んなつ、事のために…つーー」
また令呪を…つーうつーー」
信じられな…あつうつうつーー」

お

「一緒に気持ち良くなるらつーつー」
ジャンヌつ、うつ、くつうつー」

「あああああつーー」

おん

は

お

おん

おん

おん

おん

「うっ、ぐっ…」
また…射精る…うっ、うっ…」

「や…あ…っ…」
だ…だめ…です…っ…」
い…ま…っ、出されちやったら…っ…」

「も、もう…イ…クウッ…」
くっ、ぬっ、うっ、うっ…」

「あっ、はっ、あぁあぁあぁっ♡
こ…れえっ…熱…くて…っ
わたしも…っばかになっちゃ…っ
あぁあぁあぁっ…」

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



「ぬっ、くっ、ぶんっ、ぶんっー!」

「…あ…は…あ…っ…はっ…」

「くっくっwオッサンも飽きねえなあ
そんなになんそいつが気に入ったんか」

「へへw絶対に抵抗できない
タダマンは貴重ですからねえw
ぶっ壊れても使い続けますぜっ!」

「俺にはもうぶっ壊れてる
ようにしか見えんがね」

「まあ見ててくださいよw」



「一発カマしてやれば…ぬんっ…」

「んっ」

「うっ、あっ、がっ、あっ、ほあ…っ」

「ほれ」の通り…っ…」

「…っ…っ…っ…」

「あっ、はっ、く…っ…」

「あああっ…」

「くっっ」

「面白えもんだなオイ」

ズン!

ほ

あ

ズン!

ズン!

ズン!

ズン!

ズン!

ズン!

ズン!



「……あ……あ……はっ……っ
……あ……はあ……っ……はあ……っ」

「ぶっ……っ」

「しかしいいんですかい旦那？
これ以上はマジでぶっ壊れまっか？」

「かまわねえさ
俺はコイツが音をあげて
屈服するところが見たい
だけだからな
そうだったらさっさとさっさと
面白そうだw」

「そんならんじやなら
遠慮なく……e」



「はっ……っ」

「はっ……っ」

「はっ……っ」

「はっ……っ」

「はっ……っ」

「はっ……っ」



疼!

羞!

疼!

疼!

SINE

SINE

SINE

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

疼!

「はあ……はあ……はあ……はあ……」

「あ……は……あ……」

「あ……やれは……出来るじゃない……っ
っ……な……出る……とは思わなかったわ……」

「ママが相手じゃなかったら
っ……なら……」

「……っ…… それなら……
まだまだイケる……って事が……」

「……」

あッ

あッ

XN's

XN's

XN's



「そ、そろそろ射精る……」
射精るよジヤクちゃん……」

「う……ん……い……よ……う……」
だ……し……て……お……か……さ……ん……」

「ぬ……ん……ん……ん……」
イ……グ……ミ……ん……」

「……」
き……た……お……か……ち……の……か……」
あ……っ……は……あ……っ……
熱……い……の……っ……た……く……わ……ん……」

わんわん

あ

は

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ





「…あ…は…あ…
…はあし…はあし…はあし…」

「…あ…はあし…はあし…はあし…」
今日も良かったよジヤンクちゃん」

「あ…おか…ちんのせーし…
…んない溢れてもちやっした…
もったいな…」

「…あ…はあし…はあし…はあし…」
するから…」

「…あ…はあし…はあし…はあし…」

お

お

お

お

お

お

お

お



「あつ、はつ、あつ...」
とっ、ナカイ...さん...
はげ...し...」

「...」
「...」

「...」
「...」
「...」

泣き止まない

泣き止まない

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「はあし…はあし…はあし…はあし…はあし…はあし…はあし…はあし…」

「あ…は…あ…あ…あ…あ…あ…あ…はあし…はあし…だ…出しすき…です…」

「う…う…う…う…う…」

「…ほんとうに…えいちなトナカイさんです…そんな焦らなくても…私なら…」

「…あ…あ…」



はあし

はあし

はあし

あし

あし

あし

あし

